

## 2014 年度 支部事業計画書

2013/10/15 締切にてお願い致します

1. 事業名 OR学会中国・四国支部国際サマーセミナー 2014

開催支部 主 中国・四国支部 副 \_\_\_\_\_  
 開催時期 2014年8月  
 開催場所 東広島市(広島大学学士会館)  
 参加予定人数 一般:15名 学生:30名 賛助会員: 若干名 非会員:10名  
 事業内容

平成 25 年度に中国・四国支部内の独自事業として開催した「広島国際セミナー2013」では、外国人研究者 2 名を招聘し、必ずしも OR がバックグラウンドではない研究者が OR 技術を応用して優れた研究成果を挙げた事例をセミナー形式で紹介した。テーマはソフトウェア工学とマルチメディアであったが、情報工学やシステム工学を専攻する大学院生を中心に約 60 名(延べ人数)の参加があった。「広島国際セミナー2013」の成功に基づき、2014 年度は支部申請事業において、「国際化」と「OR 理論・技術の異分野への応用」を柱に、「OR 学会中国・四国支部国際セミナー2014」を開催する予定である。8 月の大学夏季休業期間中に国内外から OR の応用技術において著名な講師を招き、英語によるセミナーを開催する。具体的に、海外から 2 名、国内から 2 名の講師を招聘、OR 技術を異分野に適用した成功事例について紹介し、大学教員・企業実務家・大学院生との討論を通じて魅力的な研究テーマの模索や新しい研究パラダイムの創造に繋がるようなセミナーにしたいと考えている。外国人講師の旅費・宿泊費は日本学術振興会や広島大学の経費で賄うものとし、4 名分の講師謝金、2 名分の講師国内旅費、学生への旅費補助を予算として計上している。セミナーの内容は「情報セキュリティ」、「情報ネットワーク」、「ソフトコンピューティング応用」、「生産工学」分野を想定しており、外国人講師として Prof. K. S. Trivedi (Duke University, USA), Prof. M. Zulkernine (Queen's University, Canada) に参加を依頼中である。国内招聘講師の人選は、現在、調整中である。また 2014 年で第 6 回目を数える信頼性関連の国際会議 APARM 2014 が 8 月に日本で開催されるため、当該国際会議に参加予定の外国人研究者をセミナーに招聘することも考えている。その際の講師謝金は中国・四国支部の事業費(講演会)に申請し、交通費と宿泊費は別経費で賄うことを計画している。

2. 予算案 総額 161,304 円

内訳

講師謝金 47,304 円 (12,565 円×2, 11,137 円×2)、講師旅費 114,000 円 (32,000 円×2, 10,000 円×5)、会場費 0 円、他 0 円

## 3. 特徴

## ・研究活性化という観点からの特徴

OR 研究の重要性は学会内では十分に認識されているが、異なる研究分野における啓蒙活動が必ずしも十分であるとは言えない。換言すれば、OR 学会で議論の中心となっている技法を中心とした旧態依然の研究方法には限界があり、OR で培われた様々な理論・技術を異種分野に応用することが強く求められている。「OR 学会中国・四国支部国際セミナー2014」では、必ずしも OR がバックグラウンドではない研究者が OR 技術を応用して優れた研究成果を挙げた事例をセミナー形式で紹介することを目指しており、内外から著名な講師を招いて先端的な事例研究を英語によって紹介するというユニークな企画である。他分野における OR 理論・技法の応用について学ぶ機会を提供しながら、国際水準の事例研究成果にふれるためにはセミナー形式を採用することが最も効果的であると考える。このような企画は OR 学会員のみならず OR に興味を持つ他分野の研究者にとっても大変魅力的であり、異種分野統合を念頭に研究活動の活性化に繋がるものと思われる。

## ・教育・普及効果という観点からの特徴

大学院生等の学生会員を増強し、異分野を横断的にカバーする魅力的な研究分野を開拓することは学会にとっても緊急性の高い課題である。また、近年の学術研究における国際化は、学術水準を

維持するためには欠かすことのできない要因であり、英語による講演会やセミナーは他分野では既に常識となっている。「役立つOR」を標榜するためには、ORにおいて長年培われた最適化やモデリングの技術が実際に役立つ場面を明示する必要があり、特に若手研究者や大学院生にその効果を具体的に示すことが肝要である。必ずしも「経営問題」に特化することなくORの有用性を証明する機会は我々の周りに数多く存在しており、そのような「生きた事例」を紹介するセミナーを開催する教育的効果は極めて高いと考えられる。

#### ・会員増強という観点からの特徴

OR学会員のみならず近隣の理工系大学の教員にも案内をだす予定であり、情報工学、通信工学、システム工学、経営工学、数学等、異分野からのセミナー参加を呼びかけ、広くORの啓蒙活動を行いたいと考えている。特に、学生会員の会費無料化の特典を案内し、必ずしもOR学会プロパーではないがORの理論・技術に少しでも興味のある学生会員を増強したいと考えている。セミナー当日は、大学院生向けのOR学会入会デモを実施し、入会申込書等の資料を配布する予定である。

#### ・予算規模妥当性

講師謝金や講師の国内旅費に加えて、学生参加のための旅費補助を特にお願いしたいと考えている。中国・四国地域は全支部の中で地理的に最も広範囲な領域をカバーしているので、四国4県と広島以外の中国4県からの参加となれば相当額の交通費がかかり、研究発表以外の目的で学生が気楽に参加出来る状況ではない。「OR学会中国・四国支部国際セミナー2014」では、遠方から参加する5名程度の学生会員に対して、東広島市までの交通費の実費の半額を補助することで、意欲のある学生にセミナーへの参加を呼びかけたいと考えている。

#### 4. 自由記述欄 継続性・新規性など自由に記載下さい。

現在、ミシュランによる広告効果もあって、広島は「外国人が行ってみたい地方都市」の上位にランクされており、原爆記念日の前後は特に多くの観光客で賑わっている。「広島国際セミナー2013」が講師と参加者の両方に好評であったので、平成26年度は少し規模を拡大した形の支部事業として申請した。2013年9月に徳島で開催された秋季研究発表会を成功裏に終えることが出来たので、2014年度からの支部活動の目標として「国際化」に焦点をあてることとした。全て英語によるセミナーは他支部ではほとんど行われていないようであり、OR学会の国際化に先鞭をつける意味で、今回申請中の支部事業はユニークな内容であると考えている。中国・四国支部単独で採択された支部事業は平成21年以降ないので、「OR学会中国・四国支部国際セミナー2014」を秋季研究発表会後の中国・四国支部最大イベントとして位置づけている。